

研究論文

福井県羊歯ノート(その一)

越前山岳地帯の羊歯相

大野高枝 蟹本信雄

■に日本植物学会の北陸支部例会(1952. 11. 15. 於富山大)にての発表内容及び、北陸の植物 vol 11. No 2 及び No 3. 1953 に発表した記事中に二三の訂正増補の必要がありますので、茲に簡単にその事について述べて置きます。福井県は田川氏によると、区系の3、及び4に入り時に本地帶は区系の4に入るもの多く即ち、代表羊歯オオバショリア、ミヤマワラビ、シラネワラビ等を加越台地及び越美山地の一部が入り海岸地帯及び之に續く平地は区系3に入るゝとのと思われる。一方伊藤洋氏による分布では(=1938 植研、XIV)(Acta phyt. Geo Bot. VII. 1938)羊歯の分布が温度の影響の大きいことを中心とされ、日本列島をA. B. C. D. E の五帶となしたがこの地区はD帶ヒE帶時に山岳地帯は主としてE帶に入り、その他がD帶と思われる。

越前面部の Ca 600m 以下が田川氏の区系3、伊藤氏のD帶、東部の Ca 600m 以上の地帯が区系の4、E帶に入るヒ考えられる。

併し下ら、実際上北方系のもの、及び暖地性のものが入り交つて居り、北方系のものが垂直的にブナ帶より亜高山帶へと分布しているのに對して、暖地性のものが河川の流域に沿いて相当奥地に迄入り込んでいる様に見受けられる。

故に出現頻度を考慮しつつ見る時には大体上述の如き分布形態をヒるものと考えることが出来よう。

1) 暖地性にして分布上重視されると思われるもの--- a) 先限ヒ考えられるもの。

○ *Mecodium polyanthos* (SW) Copel. ホソバコケシノブ--- 五箇村上打波、輝度上岡東北部にも分布するが、北陸方面にては北限と思われる。(福井県新)

○ *Polystichum pseudo-makimoi* Tagawa サイゴクキノデ 上庄村、小山村、大野町龜山にも分布、この地帯一帯及び低地に分布するものと考えられる。(福井県新)

- *Acystopteris japonica* Nakai ウスヒメワラビ
石徹白和田吉池、畠谷村上若生子、その他にて採集、局在して実在。(越前新)
- *Ctenitis maximowicziana* CHING シラガシダ。1954.8. 上庄村下若生子にて採集。北陸にては産地なし。
- *Monachosorum flagellare* (Maxim) Hayata オオフジシダ。1954. 若狭一の谷国有林にて田代善太郎氏採集。その後北陸にて産地未開(田川氏) 1954.
堀芳孝氏の教示によりて上池田村皿尾にて採集。北陸に考えられる。(越前新)
- b) 分布上注意すべきもの
- *Athyrium iseanum* R. S. var *augustisectum* Tagawa 石徹白和田吉池。*A. iseanum* と混生しあるも葉肉著しくうすい。(福井県新)
- *polystichum pseudo-makinoi* Tagawa var *amagum* Tagawa
p. pseudo-Makinoi サイゴクキノテラーバリエティとして scale に黒味なく、*suri* 面に近くつく(=牛ノテヒの達い)
足羽郡上宇坂村。上池田村にて採集。(福井県新)
- *polystichum fibrilloso-paleaceum* (Kodama) Tagawa
f. intermedium Tagawa アイアスカキノ元。上庄村宝慶寺産。
牛ノテヒアスカキノテヒの中間種の如き形態をヒ。 (福井県新)
- *Dastrea viridifrons* Tagawa ミドリヒメワラビ。(福井県新)
葉にすこし毛ありて三回羽状複葉の美ヒメワラビと区別、相当分布するものと思われる。
- その他のものとして注目するものに ○ *Athyrium clivicola* Tagawa
(福井県新) 荒島、石徹白村等広くアナ帯に分布。
- *Selaginella pachystachys* Koidz オタヒバ(越前新)。芦見村下吉、小山村飯釋山に分布。
- *Woodwardia orientalis* Sw コモチシダ(越前新)
瀬戸内村下荒井、乾側材産。海岸に沿い北上。
- *Dryopteris Bissetiana* C. Chr. マイタチシダ、稀なものだがイタチシダの分類は、D. Bissetiana と D. varia, D. sacro-sancta, D. pacifica が混同されている為今後の研究によって来るのでは無いだろうか。D. Bissetiana は伊藤氏によると D. varia O. Ktze に当る。
- *Diplaziopsis Cavaleriana* C. Chr イワシダ、五箇村上打波には現存せず、畠谷村番又に一群落をなす。

○ *Diplaziūm hachijoense* Nakai (越前新)

若狭にては採集記録あるも越前にてきかず、北郷村岩屋。

○ *Cornopteris hakonensis* Nakai 永平寺の外に五箇村勝原にて採集林
間の陰地に相当分布するものと考えられる。 *Cyrtomium macrophyllum* (Mak.) Tagawa ヒロハヌアソテツ、従来越前北限であったが最近新潟県小滝
村(倉田)の記録あり。

海岸地帯に多いアメツタ・ヘラシタ・コハシゴシタ・ヌリトテノオ・ヒツバ
コバノヒノキシタ・サイゴクベニシタを見ない。海岸沿いに北上しているものと
思われる。特にコシタは能登に繁茂するのは面白い。

又頻度の少いものに、ホラシノア・タナシノア・ゴバノイシカクマ・ヰノモトサ
ウ等海岸地区と比して面白い対照をなしている。

2) 北方系羊歯にして分布上重視されるもの

a) 分布上南限と思われるもの

○ *polystichum-Braunii* (Spewn) Fee ホソキノ元 (福井県新)

前に小山村と記したが誤りで山山村のものは、ツヤナシキノ元と考えられ、その後白山を麓及び、三の峰山麓 ca 1600 にて採集。小羽片は鈍頭にして鋸歯葉
の下部著しく狭い。

○ *Dryoathyrium pteroachis* Ching. オホメシタ (福井県新)

三の峰より別山にかけて生育、それより南にて採集された事をきかぬ。

○ *Dryopteris coreano-montana* Nakai カラフトメンマ (福井県新)
従来山梨県北岳、樺太以外に産地を聞かなかつたが 1952. 8. 三の峰にて採
集。併し日本アルプスの槍岳、針の木岳にても発見され高山地帶至高山帶の一部
に分布があることが判明 (=日本羊歯の会々報) ナシタとの区別点には、sori
赤褐色葉の上部にづき葉色淡綠色化している。

○ *Cornopteris crenulata-serrulata* Nakai イッポンワラビ (=オホ
ミタマノワラビ) (福井県新)

1953. 8. 白山新道市兵衛茶屋附近及び越前三の峰、石徹白にて採集。
並巻に報告なし。

b) その他分布上注意すべきもの

Athyrium spinulosum Milde. カラフトミタマシタ (=ミタマノワラビ)。

(福井県新)

1953, 1952, 三の峰福井郷土博物館の採集によるもの。未だ見ていないが、本州(八ヶ岳)北海道に分布し極稀、珍らしいものと思われる。

Botrychium robustum Underwood, ママハナワラビ(福井県新)。郷土博物館採集、小生未見。一般に信濃以北のもの。小生未見、

その他 *Athyrium melanolepis* Christ ミヤマメシタ、ca 1400~1500 以上の高地に生育、垂直分布上面白いものとされる。 *Lycopodium complanatum* L. var *dilatatum* Nakai アスヒカツラ、南限ではないが ca 1200 ~ 1300 の高地に生育、石徹白村和田山、大日岳。 *Lycopodium chinense* Christ ヒメスギラン(福井県新)荒島三の峰頂上局在して矣在稀れなものではない。*Hecodium Wrightii* Cop. コケシノア(福井県新) 白山新道三の峰別に珍らしいものではないが本県未採集。 *Lycopodium annotinum* L. var *latifolium* Takeda ヒロハスギカツラ(福井県新)。別山より三の峰、

Diplazium bittyuense Tagawa. ピュエウヒオケワラビ。永平寺のみ稀産越前内にては外に産地を離かず。 *Athyrium yokoscense* Christ var *dilatum* Tagawa ヒロハヘビノネゴサ(福井県新)。郷土博物館石徹白村にて採集、未見。 *Thelypteris nipponica* Ching var *borealis* Hiyama テニックワウシタ、郷土博物館採集、未見。石徹白産。 *Th. nipponica* = ツクワウシタは小生石徹白大杉の附近にて採集(1949)ニツクワウシタが包膜に毛と腺とを混生しているに対してテニックワウシタが腺毛のみを生じていることによって両者を区別するのならば、生の標本でなくては識別困難ではないかと思う。

海岸地帯と比して一般に個体数又、種類数の多いものと当然と考えられるが、ヒモカツラ、エソノヒメクラマゴケ、(青葉山)マチスギラン(敦賀 東郷)が当地区に発見されていない。

垂直的に見たる羊歯の出現頻度表(裏)

以上の分布を見て暖地性及び北方系の羊歯が複雑に混生して居るが垂直的な要素の影響のため山麓帶よりアナ帶、亜高山帶となるにつれて北方系、高山系の羊歯が優占してくる現象は何処の地区にても見出されるものである。併しその間に暖地性の羊歯が局在している点が注目される。私考するに羊歯の分布は種子植物 *Spermatophyta* の分布と比べて *prathallium* の特異性、及び *Antheridia archegonia* から生ずる *sperm ovum* の受精の特異性とそれ等の要求する属性、土地の PH 等が温度と共に影響しあう実等を合せて考慮する必要があるのではないか

いかと思われる。以上越前東部地区の羊歯をまとめますと、前に発表しました、
58属112種21変種1品種を、訂正しまして59属121種25変種、1変
種（内博物館発表の追加の分2種2変種が入る）となる。

併し下ら今後の研究により又採集により、更に Flora は増加するものと考え
られる。ミツユメアリテツ（近畿、新潟）オオキヨズミシタ（近畿、富山、新潟）
等も発見されるのではないかと思われます。又生態的には Gametophyte の受精
と水分の関係、並びに地形の日照度時間及び地形の老朽との関係 Gametophyte
のさつ個有の要求條件とそれ等の生存競争、Spore の飛行距離と風向との関
係、冰雪との関係及び、最も重要な Sporophyte とその要求条件等分布と生態
との間に於ける有機的な諸種の組合せによって、羊歯の分布が決定される様に
考えられる。

故に羊歯の分布については、益々今後の研究によらなければ解決出来ない問題
があるようである。

最後に当りまして、標本の同定その他に種々御教示御指導頂きました京大田川先
生に厚く感謝致します。文献裏

猶当地域内の羊歯の属名及び種変種品種数下記の通りである。

genus.	sp. var. forma.	genus.	sp. var. forma.
Ophioglossum	1	pteris	2 /
Botrychium	5	Onychium	/
Mecodium	2	Sternoloma	/
Vandenbaschia	2	Conogramme	2
Hymenophyllum	1	Pleurosoriopsis	/
Pagiogyria	3	Hypolepis	/
Oratopteris	1	Microlepia	/
Diplopterygium	1	Coptidipteris	/
Osmunda	1 /	Denstaedtia	2
Lygodium	1	Adiantum	/
Marsilia	1	Davallia	/
Salvinia	1	Onoclea	/
Azolla	2	Matteuccia	/
Pteridium	1	Pentarhizidium	/

genus.	sp.	var.	forma.	genus.	sp.	var.	forma.
Woodsia	/			Athyrium	/3	2	
Polystichum	8	2	/	Dryoathyrium	3	2	
Cyrtomium	2	/		Woodwardia	/		
Rumohra	3	/		Struthiopteris	2		
Ctenitis	2			Camptosorus	/		
Dryopteris	/2	3		Phyllitis	/		
Glaphyropteris	/			Asplenium	2		
Thelypteris	4	4		Loxogramme	/		
Cyclophorus	/			polypodium	/		
Leptosrumohra	/			Lepisaurus	3	/	
Phegopteris	/			Phymatopsis	/		
Leptogramme	/			Isoetes	/		
Acystopteris	/			Lycopodium	3	5	
Cornopteris	3			Selaginella	3		
Diplaziopsis	/			Equisetum	2		
Diplagium	4.	/		Monachosorum	/		

Total 60 genera. / 22 sp., 25 varieties / forma

註. (福井県新) は福井県植物目録中では新採集で新たに追加されるべきもの。

(越前新) は越前植物目録に新たに追加されるべきものをいう。

越前東部羊齒植物目録

大野高校 蟹本信雄

List of Ferns in Eastern part of Echizen.

Nobuo Kanimoto 1954.12.10

—序に就いて—

昭和8年10月福井県植物目録、昭和11年全目録の追加が発表されてより未だこの種目録の発表がないので、其の後発表された植物又筆者自身新しく採集せるものもあり、追加の程度では当を得ないので敢えて発表したのである。